

MILウィーク2019企画Part1 「SDGsとメディア情報リテラシー」

長岡, 素彦

(出版者 / Publisher)

法政大学図書館司書課程

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

メディア情報リテラシー研究 / The Journal of Media and Information Literacy

(巻 / Volume)

1

(号 / Number)

2

(開始ページ / Start Page)

101

(終了ページ / End Page)

105

(発行年 / Year)

2020-03

法政大学図書館司書課程
メディア情報リテラシー研究 第1巻2号

(研究会報告) MILウィーク2019企画Part1 「SDGsとメディア情報リテラシー」

長岡素彦

一般社団法人地域連携プラットフォーム

概要

今年のMILウィークは2030アジェンダSDGsをテーマにSDGs関係者、ジャーナリスト、学生、メディア情報リテラシー教育関係者が「SDGsとメディア情報リテラシー」を論じた。2030アジェンダSDGs自体から、メディア情報リテラシーとESD持続可能な開発のための教育、メディアリテラシー、国際協働学習などの取り組みから2030アジェンダSDGsについて述べた。

キーワード：2030アジェンダSDGs MIL ESD

8月24日に法政大学でグローバルMILウィーク2019企画Part1として「SDGsとメディア情報リテラシー」(主催：法政大学図書館司書課程 (UNITWIN MILID) 共催：アジア太平洋メディア情報リテラシー教育センター (AMILEC)) を実施したので報告する。

趣旨は下記の通りである。

「アジア太平洋メディア情報リテラシー教育センターはSDGsとメディア情報リテラシーに関するフォーラムを開催します。

私たちはSDGsのことをメディアで知ることが多いですが、それを読み解きすすめるためには、リテラシーが重要になっています。そのリテラシーをユネスコではMILメディア情報リテラシーとして展開しています。

また、中高でのファクトチェック(フェイクニュースの読み解き、チェック)の授業(チェックシートあり)なども展開しています。

ここでは、SDGsの基礎から新聞記者の実践までをご紹介します。

ユネスコなどの国連機関、及び、そのプログラムはSDGsの関与が規定されているが、ユネスコのメディア情報リテラシーでは「5原則」にSD持続可能な開発が挙げられ、また、SDGsのコミットメントを具体的な形にしています。

ここでは、2030 アジェンダ SDGs を身近なものにして、知り、学び、行動するための教育やメディアの実践をお聞きして論議します。

また、教育やメディアの「SDGs 推進」ではなく、2030 アジェンダ SDGs として、ジャーナリズムとしての制度の透明性・情報公開、メディア情報リテラシーなどの観点から論議します。

今年の MIL ウィークは 2030 アジェンダ SDGs をテーマに教育、ジャーナリスト、市民、学生、メディア・リテラシー教育関係者が語り合う機会にしたいと思います。

アジア太平洋メディア情報リテラシー教育センター (AMILEC) は、SDGs・ESD、ユネスコと公式に連携してメディア情報リテラシー (MIL) を推進しています。」

「2030 アジェンダ SDGs・ESD」として長岡素彦 (一般社団法人 地域連携プラットフォーム) が報告した。

SDGs の本体は「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」であり、SD 持続可能な開発に基づいている。SDGs の目標、ターゲットはその一部で、SD 持続可能な開発で行われる。

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」は、前文、宣言、持続可能な開発目標 (SDGs) とターゲット、実施手段とグローバル・パートナーシップ、フォローアップとレビューで構成されている。そして、SDGs を現在の制度に SDGs を取り入れるのではなくアジェンダで述べられたようにトランスフォーミング (Transforming) である。

SDGs4・ESD 持続可能な開発のための教育 (以下、「ESD」) とは、「全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする」(SDGs4-7) もので、2005 年から国連 DESD 持続可能な開発のための教育の 10 年のプログラムとして、ユネスコをリーディングエージェンシーとして先行して全世界で行われてきた。

メディア情報リテラシー (以下、「MIL」) とは、「メディア・リテラシーと情報リテラシーを統合した複合リテラシーである。」(坂本句) そして、MIL と異文化間対話に関わる能力を合わせて「メディア情報リテラシーと異文化間対話」(MILID) としてリーディングエージェンシーのユネスコが展開している。

「MIL と ESD をつなぐためにできること」として坂本句 (法政大学) が報告した。

ESD の教育としての基本的な性格はユネスコの MIL プログラムとは「持続可能な開発」だけでなく、いろいろと共通している。これを、さらにすすめ「MIL+ESD」というコンセプトのもとにプロジェクトを行っている。その具体例としてビデオレターの授業・プロジェクトを説明し、MIL for SDGs では、SDGs は MIL 活動であると述べた。また、ESD とは、「持続可能な開発」のための教育であり、「世界の課題」を「身近な生活」と関連付けて考え、「行動する力」を育てる教育で、「(E) いいー (S) 世界にー (D) できる人間を育てる教育」である語った。

また、「MIL+ESD」の具体例としてビデオレターの授業・プロジェクトとして須賀川市立白方小学校とネパールの小学校とのビデオレタープロジェクト」の紹介、学生の作成した震災についてのデジタルストーリーテリングのビデオの上映も行った。

「ネット時代のニュースや情報の特徴を知り、うまく活用する方法を考えよう」として鈴木賀津彦（東京新聞）が報告した。

#KuToo（クツー）運動を事例にネット時代のニュースや情報を活用する実例を述べた。#KuToo運動は、セクハラ・パワハラに対する運動#MeToo運動にヒントを得た、女性が仕事でパンプスを履くことを強制されることに対するツイッター発の異議申し立て運動である。

ネットメディアのSmartNewsでは、「ネット時代のニュースや情報の特徴を知り、うまく活用する方法を考えよう」というプログラムを展開している。このプログラムはネットニュースでの#KuToo運動に見出しをいくつかの立場になって見出しをつけ、比較するワークを行うものである。

参加者はいくつかの立場から「どんなことを社会に発信したいか」などを決め、実際に記事内容を考え見出しをつくり共有する。

それらの見出しを比較すると同時に、厚生労働大臣の発言の新聞各社の報道、#KuToo運動に新聞各社はどのような見出しをつけたか、ツイッターではどんな発言があったかを比較した。

このことから、参加者はインターネットの課題であるフィルタリングや情報源の信頼性などを理解し、ニュースや情報の特徴を知り、うまく活用する方法を考えた。

今まで、新聞メディアでもこのような取り組みがなされていたが、今後はネットメディアとともに幅広いニュースや情報の活用を考えたいという。

「国際協働学習とiEARN」として栗田智子（実践女子大学）が報告した。

iEARNは地球と人々の福祉と健康に貢献するプロジェクトを若者が行えるようにするプロジェクトで、140カ国の国・地域と3万以上の学校・団体が参加している国際協働学習のNGOネットワークである。この国際協働学習は、グローバルな協働学習・PBLであり、多様で異質な他者との出会い、対等なパートナーシップ、学習の目標や成果などを共有することを目指している。

iEARNは多様な課題、対等なパートナーシップ、学習などを、SDGsと共有し連動しているという。

「SDGsに関する保護者の意識」として寺島絵里花（日本メディア・リテラシー協会）が報告した。

「SDGsに関する意識アンケート」（実施日：2019年8月20日～23日）の結果を報告した。回答者は221名で約45%が未就学児、約38%が小学校低学年の保護者であり、SDGsの認知度は63.6%、認知者のうち意味や目標を知っている者は約44%である。また、SDGsは、学校

のどの授業で学ぶのかについては91.9%が知らない、子供と話したことがあるのは約16%、子供からSDGsのことを聞かれたことがないが約90%であると語った。

このことから、SDGsは、わたしたちの生活に密着したテーマがたくさんある家庭内で、親と子供で話し合えることは、たくさんあるはずであり、行政、企業、学校、家庭4つの車輪がそろってこそ、本当の教育が実現できる、との見解を述べた。

「カンボジア音楽活動とSDGs」として田邊美樹（アジア太平洋メディア情報リテラシー教育センター）が報告した。

カンボジアの経済発展の状況と教育現場の状況を語り、カンボジア音楽教育の状況と協力しているプノンペン王立芸術大学の音楽教育について述べた。プノンペン王立芸術大で楽譜、練習場所、講師、報酬が足りない中、公的音楽教育のない国での教育プログラム「Music Teacher Scholarship System」を立ち上げた。これは、基準としての音楽の基礎的リテラシーを身につけ、誰もが納得できる音楽を教えることを目指しているという。この基礎的リテラシーはEsdとmilでもある。

「カンボジア人留学生が見たニッポン」としてロエック・トーチ（亜細亜大学大学院生）が報告した。

カンボジア人留学生として母国で受けてきた初等中等教育と日本の大学教育について述べた。カンボジアで受けてきた初等中等教育は主要教科のみで実用に偏っており、教え込みではない相互的な教育やワークショップなどの教育は行われてこなかったという。

さて、SDGsとメディア情報リテラシーとその実践は深く関連している。

SDGsとメディア情報リテラシーの関係であるが、ユネスコのメディア情報リテラシーでは「5原則」の第1原則（持続可能な開発）は「情報、コミュニケーション、図書館、メディア、テクノロジー、インターネットは、他の情報供給源と同様に、市民の批判的な取り組みと持続可能な開発のために用いられる。」ものである。

ネットメディアや新聞メディアでのメディア情報リテラシーの取り組みが、メディアの問題ばかりでなくジェンダーの問題などへの市民の批判的な取り組みとして行われると共に、SDGsに規定された制度の透明性・情報公開の役割を担うというメディア本来の役割を果たす。

iEARNの国際協働学習は多様な課題、対等なパートナーシップ、学習などを、SDGsと共有し連動している。日本メディア・リテラシー協会などの取り組みもSDGsと関係付けて行われている。

カンボジアでの取り組みは、持続可能な開発における基礎的リテラシー、ESD、MILが統合されて実施されている。

SDGsを含めてメディアや情報によって地域と世界の状況を知る現在では、メディア情報リ

テラシーはSDGsのリテラシーとして重要な役割を果たす。

また、SDGsで地域と世界の問題を解決するにはグローバルな協働学習・PBLが必要で、そのためにもメディア情報リテラシーが重要である。

SDGsをすすめる教育としてのMIL、ESDの取り組み、特に「MIL+ESD」が示すように、両者は現状では分かち難く存在し、持続可能な開発における重要な役割を果たしている。